

言語研究領域 履修例

| 学生の専攻分野・出身背景等(例) | 総合科学部出身学生 | 他学部・他大学出身学生 | 社会人 |
|------------------|--|---|---|
| 研究テーマ(例) | 語順に関する対照言語学的研究 | 公共広告についての日英比較語用論的研究 | 若者言葉と言語規範の揺れに関する研究 |
| 履修科目(例) | 必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(言語研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 音声学音韻論セミナー 認知意味論 対照言語学 言語構造論 【他領域科目】 (4) 認知言語論 情報システム論 自由選択科目 (4単位) 比較語用論 科学・技術・社会論 | 必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(言語研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 対照言語学 比較語用論 現代英語の文法と語法 言語構造論 【他領域科目】 (4) 社会行動論 英米地域研究 自由選択科目 (4単位) コンピュータ言語学 社会文化史 | 必修科目 (14単位) 総合科学演習 (2) コア科目A・B(4) 特別研究(言語研究) (8) 選択必修科目 (12単位) 【主領域科目】 (8) 音声学音韻論セミナー 認知意味論 比較語用論 現代英語の文法と語法 【他領域科目】 (4) 哲学・思想 社会文化史 自由選択科目 (4単位) 応用言語学インターフェイス 認知言語論 |
| 教育目標(例) | 人間の言語能力の側面に焦点を当て、さまざまな言語の音声情報・語彙・文法構造・言語コミュニケーションを分析する能力を涵養し、人間の認知能力としての言語に関する科学的知識をもった人材を養成する。これによって、現代社会における言語や情報・科学技術の調和のとれた発展に寄与できる能力をもつ人材を養成する。 | 言語活動の側面に焦点を当て、言語テキスト・談話・言語コミュニケーションの動的過程を分析する能力を涵養し、応用言語学や社会的視点から言語活動を多面的にとらえる人材を養成する。これによって、多様な言語の葛藤から共生への道を探る問題解決能力をもった人材を養成する。 | すでに活躍中の社会人や留学生に対して、言語変化の過程や言語コミュニケーションを分析する能力、及び言語的葛藤の問題を解決する能力をもった人材を養成する。これによって、相互理解と円滑な伝達を促す成熟した社会の発展に寄与できる言語的能力をもった人材を養成する。 |
| 授与学位 | 修士(学術) | 修士(学術) | 修士(学術) |
| 養成する修了生像(例) | <ul style="list-style-type: none"> ● 大学・研究機関の研究者・教育者をめし、博士課程後期へ進学する者 ● 言語情報処理・データベース管理の専門家 ● 言語学・語学に精通したマスコミ・出版関係編集者 ● 翻訳・通訳・通信の専門家 | <ul style="list-style-type: none"> ● 大学・研究機関の研究者・教育者をめし、博士課程後期へ進学する者 ● 言語学に精通したマスコミ・出版関係編集者 ● 企業における広報部門・企画開発部門の専門家 | <ul style="list-style-type: none"> ● 翻訳・通訳・通信の専門家 ● 帰国後母国の政府・自治体の言語政策・企画部門等で活躍できる者 ● 若者分化やコミュニケーションに精通した出版企画者 |